

令和5年度 第57回 中学生の「税についての作文」

『命をつなぐ希望のバトン』

町田市立南中学校 3学年 杉山 瑠美奈

私は普段、救護ボランティアとしてマラソン大会や地域のイベントで救護活動をしている。

「助けてください、父が、父が急に倒れたんです！」傷病者の男性の娘さんが顔色を変えて救護テントに駆け込んできた。現場に到着すると人ごみの中で倒れている男性を見つけた。意識がなく、呼吸もしていない。私は近くにいた人に「一九をお願いします」と声をかけた後、すぐに救護活動に取りかかった。救急車が到着するまでの時間がとにかく長く感じたことを鮮明に覚えている。それまでの時間で他の救護メンバーも集まったが男性の生命は危険にさらされていた。救急隊に引きつぎ、通常業務に戻った後、男性の心拍が再開したと聞き今までにない位の喜びで胸がいっぱいになった。

救急車はこのような緊急の場面で患者を病院まで迅速に搬送する役割を果たしているが救急車の運営には人件費や医療機器導入費だけでなくメンテナンス費や燃料費などで非常に高い費用がかかる。日本では救急車を含む医療サービスは国や地方自治体の税金によって提供されている。つまり、税金を納める事によって救急車が必要な人々に迅速かつ適切な医療を提供することができるのである。私たちがケガや病気をした際に救急車がすぐに駆けつけてくれること

は非常に重要であり、税金がなければこのようなサービスを利用するのに莫大なお金を自己負担しなければいけなくなってしまいう可能生もある。

さらに税金は公共サービス全般の維持や社会の発展にも貢献しており、税金を通じて教育・交通・公園などのインフラ整備や社会保障制度の運営などが支えられている。

つまり、税金は私達が快適な社会の中で生活するのに必要不可欠であり私達の社会の基盤を支える重要な役割を果たしている。そして私達一人一人が税金を負担することでより良い社会へとつながっていくのである。

これらを踏まえて私は今まで「税金を払う＝損をする」という考えを持っていただけとそれでは間違いで社会は税金によってかたちづくられている事に気づくことができた。これからは私たちの生活においてなくてはならない存在である税金に感謝して生きていきたいと思う。